

巻頭言

「技報のメリット・活用法」

取締役常務執行役員 管理本部長

小山 靖志

巻頭言を書くにあたって、創刊以来の各号の巻頭言を一読しました。合併 1 年後の 2003 年が創刊ということで、この 15 年間の当社を取り巻く情勢を振り返ると、独禁法の改正、受注競争の激化、リーマンショック、東日本大震災といった大変な時代であったなと改めて感じました。

近年、建設業界は東京五輪需要もあり大手ゼネコンは好調な業績を挙げており、当社グループも純利益で 4 期連続して最高益を更新しております。しかしながら、建設業界がいつまでも旺盛な受注を確保できることは期待できません。早晩、受注減少に伴い、各社の受注競争が再び激しくなることを想定する必要があります。

このような状況にあって、当社グループは 2016 年に長期経営計画ビジョン～10 年後の目指す姿～を発表し、「PC を核としたピーエス三菱ブランドを確立し、成長分野、新分野に果敢に挑戦する魅力あふれる企業集団を目指す」こととしています。PC を核とした技術力が当社グループの強みであり、今後もこの技術力をさらに高めることが経営戦略の中核となります。

今年の技報は橋梁上部工、コンクリート・材料、維持・補修・補強、一般土木、基礎工、PC 建築、一般建築、海外事業、ICT など非常に多岐にわたり、当社グループの現在の技術の粋が一望できる内容となっています。

さてこのたび技報を読み返したことを機に、技報のメリット・活用法ということについて

て考えてみました。

まずは、技術の伝承という面です。技報には当社グループの施工実績、試験研究など、その時々ホットな話題が掲載されています。建築物には全く同じものはないと言われており、ある現場で得られたノウハウ、知見がそのまま他の現場で使えることはないでしょうが、有益なヒントは得られると思われます。過去の記事も当社のホームページで閲覧することができるので、是非活用するようお願いします。

つぎに、文書作成能力の向上という面です。何らかの文書を作成するというのは、当然、読み手を意識して作成する必要があります。限られたスペースの中で、読み手が何を期待しているのか、どういうことを知りたいのかなどを考えながら文書をまとめるというのは、なかなか簡単にはいきません。技報に投稿して頂く皆さんは業務が忙しい中、原稿作成は大変だと思いますが、文書作成能力の向上を図る絶好の機会としてチャレンジするようお願いします。

更に対外 PR ツールという面です。近年、当社では対外 PR を積極的に進めていますが、知名度の一層の向上が課題となっています。会社案内、CSR 報告書などとともに、技報も社外に情報発信する有力なツールの一つとして PR に活用できます。発注者、研究機関、教育機関、建設業界他社などできるだけ多くの方に当社グループの技術を知って頂けるよう、体裁や掲載内容の一層の改善をお願いします。

最後に管理本部を担当する私としては、事務部門の皆さんも各人、年に一度はレポートを作成することをお勧めします。レポートの一例として、テーマは業務上の問題点と対処策について、A4 版に 2〜3 枚程度、読み手は直属の上司です。これを毎年継続すれば文書作成能力の向上、キャリアアップが図れます。また、各人のレポートを社内で共有すれば、皆さんの業務遂行に役立ちます。

その他、技報のメリットや活用法はいろいろあろうかと思います。ホームページで過去の技報も閲覧可能ですので、皆さん一人一人が技報を是非活用して頂きたいと思います。

2018 年 8 月